

令和2年度 道の公共土木事業(直営)における木材使用実績について

HP公表

1 木材使用実績(原木換算)

(単位:m3)

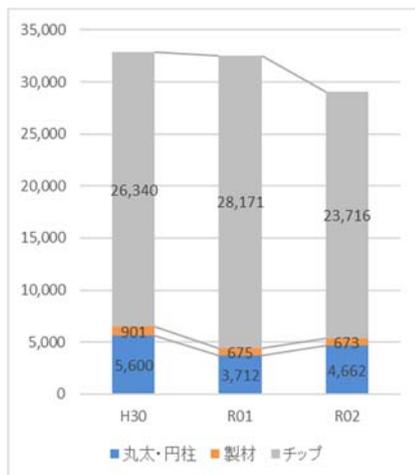
	丸太・円柱(m3)			製材(m3)			チップ(m3)		
			前年度比			前年度比			前年度比
農政部	H30	5,600	92%	H30	901	115%	H30	26,340	96%
	R01	3,712	66%	R01	675	75%	R01	28,171	107%
	R02	4,662	126%	R02	673	100%	R02	23,716	84%
建設部	H30	341	166%	H30	4,860	123%	H30	37	308%
	R01	154	45%	R01	4,476	92%	R01	43	116%
	R02	101	66%	R02	3,771	84%	R02	96	223%
水産林務部	H30	781	75%	H30	969	57%	H30	4,064	328%
	R01	806	103%	R01	1,515	156%	R01	451	11%
	R02	1,021	127%	R02	2,303	152%	R02	1,280	284%
合計	H30	6,722	91%	H30	6,730	104%	H30	30,441	106%
	R01	4,672	70%	R01	6,666	99%	R01	28,665	94%
	R02	5,784	124%	R02	6,747	101%	R02	25,092	88%

※端数処理により合計が一致しない場合がある。

※製材及びチップの使用実績は(参考)の方法により原木換算したものである。

2 各部の状況

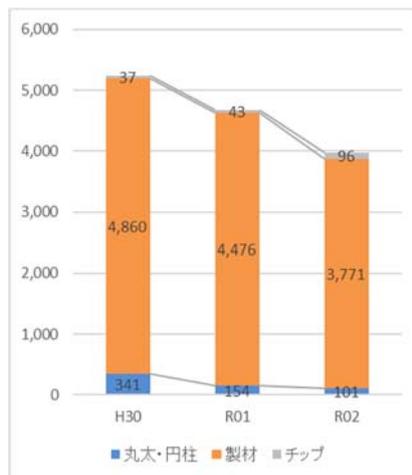
(1) 農政部



【分析】

全体使用量は減少傾向にある。R1 から R2 にかけて、チップの使用量が大きく減少し全体使用量が減少したものの、丸太・円柱については増加し、製材は横ばいで推移した。

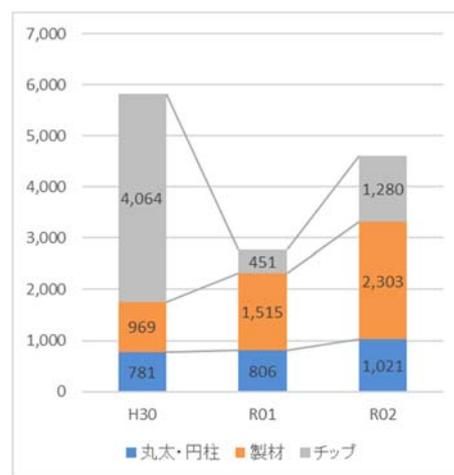
(2) 建設部



【分析】

H30はH28 災害の復旧工事期間であるため、丸太・円柱、製材、チップ使用量が増加。この影響もあり、R1・R2 にかけて製材使用量が大きく減少し、全体使用量も減少傾向で推移した。

(3) 水産林務部



【分析】

H28 の災害(風倒被害)における被害木整理を行ったため H30 はチップの使用量が大幅に増加。R1 に全体の木材使用量が落ち込んだものの、R2 にかけて特に製材の使用量が増加している。

3 コンクリート型枠合板の利用実績について

所属部	年度	使用量(m ²)	うち道産材(m ²)	道産材の割合
農政部	平成30年度	934	781	84%
	令和元年度	1,241	365	29%
	令和2年度	1,715	1,176	69%
建設部	平成30年度	138,355	46,166	33%
	令和元年度	118,613	27,381	23%
	令和2年度	121,772	32,813	27%
水産林務部	平成30年度	28,043	26,997	96%
	令和元年度	24,234	23,166	96%
	令和2年度	25,130	24,153	96%
合計	平成30年度	167,332	73,944	44%
	令和元年度	144,088	50,912	35%
	令和2年度	148,617	58,142	39%

(参考)

原木換算方法

・製材→原木

製材での使用実績を A(m³)として

原木量(m³) = $A \div 0.637(63.7\%)$ より算出

(令和2年木材需給表 木材需給表の作成方法(2)丸太換算率 林野庁より引用)

・チップ→原木

チップでの使用実績を B(m³)として

原木量(m³) = $B \times 0.3$ より算出

(木材チップの換算係数 全国木材チップ工業連合会 より引用)